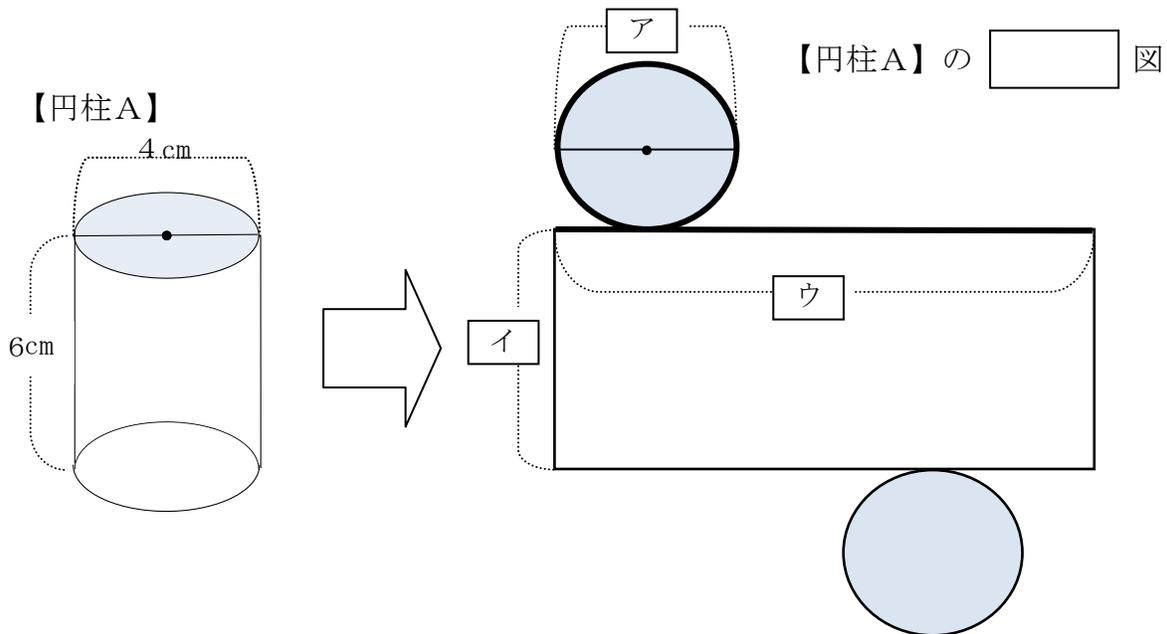


教材3-H-(3) 立体の表面積

立体の表面積を求めるためには、まず、その立体のそれぞれの面がどのような図形になっているかを調べます。それには、 図を用いると便利です。

例えば、見取り図の【円柱A】の表面積を求めるときには、下のように 図を考え、どの部分の長さや大きさが対応するか調べます。



ア は、円柱の底面の直径なので cm、
 したがって、その半径は cm とわかり、底面の円の面積が求められます。
 また イ は、円柱の高さと一致するので、 cm です。
 ウ の長さは、太線で示した底面の円周の長さと一致するので、 cm です。

よって、【円柱A】の表面積は

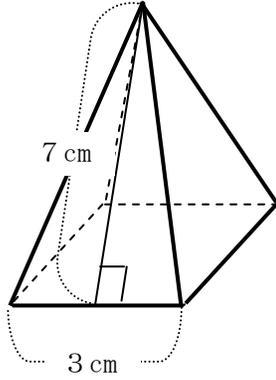
$$\begin{aligned}
 & \boxed{\text{底面の円の面積 } 2 \text{ 枚分}} + \boxed{\text{側面の長方形の面積}} \\
 & = \boxed{} \times 2 + \boxed{} \\
 & = \boxed{}
 \end{aligned}$$

年

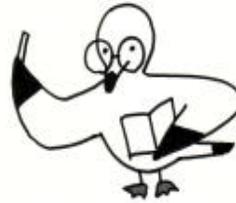
組 名前

たしかめよう

次の見取り図の正四角すいの表面積を求めなさい。



展開図をかいて
それぞれの面がどんな
図形になるのかを
確かめよう



年

組 名前

チャレンジ

次の円すいの表面積を求めなさい。

